

夢に 生きている

Challenge to
My Dreams



収穫1週間前まで袋掛けして高品質化



収穫したキウイは伊東共選場で選果

キウイフルーツ生産者

すずき りきや
鈴木 力哉 さん(62)

伊東市富戸在住。キウイフルーツを15アール、ギンナンを20アール、ダイダイを20アール栽培。あいら伊豆キウイフルーツ部会に所属。



丁寧な栽培で高品質・安定生産

父から継承した園地を守る

伊東市でキウイフルーツを栽培する鈴木さんは、高校卒業後に自衛官として10年間務めた後、父・輝雄さんが実家で営んでいた農業を継ぎました。「自衛隊の規律ある生活の中で、体力と忍耐力を養った経験が生きて、真剣に農業に取り組めた」と就農当時は振り返ります。

輝雄さんが高齢になり農作業が難しくなったため、現在は1人で園地を管理。「父親と一緒に汗を流し、作業をしながら栽培を教わった日々が、今の自分の礎となった。本当に感謝している」と輝夫さんへの思いを

語り、「父が40年以上続けた園地をこれからも守っていきたい」と意気込みます。

省力化と

丁寧な栽培の両立

栽培品種は「レインボーレッド」と「ヘイワード」の2品種です。栽培のポイントは、平棚仕立てによる栽培と省力化を掲げながらも、細かい作業を徹底すること。「特に重要なのは、収穫後の冬の剪定^{せんてい}。つるの手入れは非常に手間がかかるが、剪定と誘引で樹形を整え作業しやすい高さで環境を作ることにより、その後の摘蕾や摘果、袋掛け、収穫作業の効率があがる」と話します。

細部まで行き届いた管理を行い、作業効率が良い棚に仕立てること、翌年の実りも良くなり、品質向上と安定生産につながっています。

レインボーレッドの普及と農業の活性化を目指して

今後の目標として『レインボーレッド』の生産と普及の拡大を目指す」と意欲を語る鈴木さん。「赤色の鮮やかな果肉と濃厚な甘みにファンも多く、希少な品種で地域の特産品としてさらに広げていきたい」と話します。

「安全・安心を第一に、ファーマーズマーケットなどを通じておいしい地域農産物をお届けし、多くの方に喜んでほしい。今後もJAや部会の仲間と連携して、地域農業を活性化させていきたい」と力強く語りま



キウイフルーツ

伊東市では、全果実に袋掛けを行い、減農薬栽培で日焼けや傷が少ない高品質な果実を生産しています。

10月から果肉が赤く高糖度の「レインボーレッド」、11月後半から甘みと酸味のバランスが良い「東京ゴールド」「アップルキウイ」、2月からグリーン色で定番の「ヘイワード」を出荷しています。



キウイフルーツの出来や梱包方法について
営農アドバイザーと話す鈴木さん(右)

営農アドバイザーから

あいら伊豆営農経済センター 地区営農販売課

やまぐち あんな
山口 杏奈

鈴木さんは摘蕾・摘果を徹底し、一果ずつ袋掛けを行い、大玉で高品質な果実づくりに取り組んでいます。この手間を惜しまない作業が、安定したおいしさへとつながっています。

あいら伊豆地区は、10月から3月にかけて4品種を出荷していて、静岡県キウイフルーツ果実品評会で入賞するなど、品質でも高い評価を受けています。全果実の袋掛けを徹底し、高単価で販売できるような果実づくりに取り組み、生産者の農業所得向上を目指します。

